

令和 7 年度
新潟県病害虫発生予察速報第 11 号
(アゾキシストロビン剤耐性ダイズ紫斑病菌の発生)

県内で、アゾキシストロビン剤（代表的な商品名：アミスター20フロアブル、グループ名：QoI 殺菌剤）に耐性を示すダイズ紫斑病菌が確認された。紫斑粒の発生状況をよく確認し、防除効果の低下が疑われる場合は、QoI 剤と異なる作用機構の薬剤に変更する。

1 アゾキシストロビン剤耐性ダイズ紫斑病菌の発生状況

- (1) 本年、県内の大豆ほ場 19 地点から採取した紫斑粒より分離した紫斑病菌 113 株について、作物研究センターで薬剤添加培地による感受性検定を行ったところ、15 地点で耐性菌が認められた。
- (2) 耐性菌の分布には地理的な偏りはなく、県内に広く分布していた。また、耐性菌は、アゾキシストロビン剤を使用したほ場だけでなく、使用しなかったほ場でも認められた。
- (3) 現時点では、耐性菌の発生に伴う防除効果の低下事例は認められていない。

2 今後の対応

- (1) アゾキシストロビン剤（他のQoI殺菌剤を含む）を継続して使用することで、耐性菌の増加と防除効果低下のリスクは高まる。アゾキシストロビン剤（他のQoI殺菌剤を含む）を使用して紫斑粒が多く発生し、防除効果の低下が疑われる場合は、QoI剤と異なる作用機構の薬剤に変更する。
- (2) アゾキシストロビン剤を連年使用しているほ場では、他の系統の薬剤への切り替えを検討する。
- (3) 本病の伝染源は種子及び大豆の収穫残渣である。購入種子の使用や過度な大豆連作の回避、適切な種子消毒、適期収穫、収穫後子実の速やかな乾燥、収穫残渣の早めのすき込みなど、基本的な対策を確実に行う。

QoI 殺菌剤以外で「令和7年度新潟県病害虫雑草防除指針」に掲載されている紫斑病防除農薬(茎葉散布)

分類	薬剤名	使用時期	使用回数
M1	Z ボルドー	—	—
	Z ボルドー粉剤DL	—	—
3	サンリット水和剤	収穫 14 日前まで	2 回以内
	プランダム乳剤 25	開花後～収穫 7 日前まで	2 回以内
53	フセキフロアブル	収穫前日まで	3 回以内
U16	トライフロアブル	収穫 14 日前まで	2 回以内
3A+U16	トライトレボン粉剤DL	収穫 14 日前まで	2 回以内

分類は FRAC コード（3A は IRAC コード）。